

# 歴史の扉

1999

第6号

(財) 広島市文化財団文化科学部 文化財課



う~ん  
燃えてるね



とく しゅう と き いち だい かく しん  
**特集 土器の一大革新**

す え き たん じょう  
須恵器誕生

す え き ひら し ま し あ と さ た く し ら き ち ゅ う とう ね か だい じ ゅ う こ ん ぶ じ ゅ う  
須恵器 (広島市安佐北区白木町・塔の岡第1号古墳出土)



# すえきーかたいうつわ

表紙の器は、古墳時代に作られはじめた「須恵器」という種類の器です。それまでの土器よりかたい器です。

須恵器の2大セールスポイント!!  
①がんじょう! ②水もれが少ない!



須恵器はものをためておく器や食器として使われました。特に焼きしまっているために液体がもれにくく、水やお酒を入れておくのに役立ちました。



とっても使い  
やすいし、長もち  
するよ。大好きな  
お酒を入れておい  
ても安心だね。

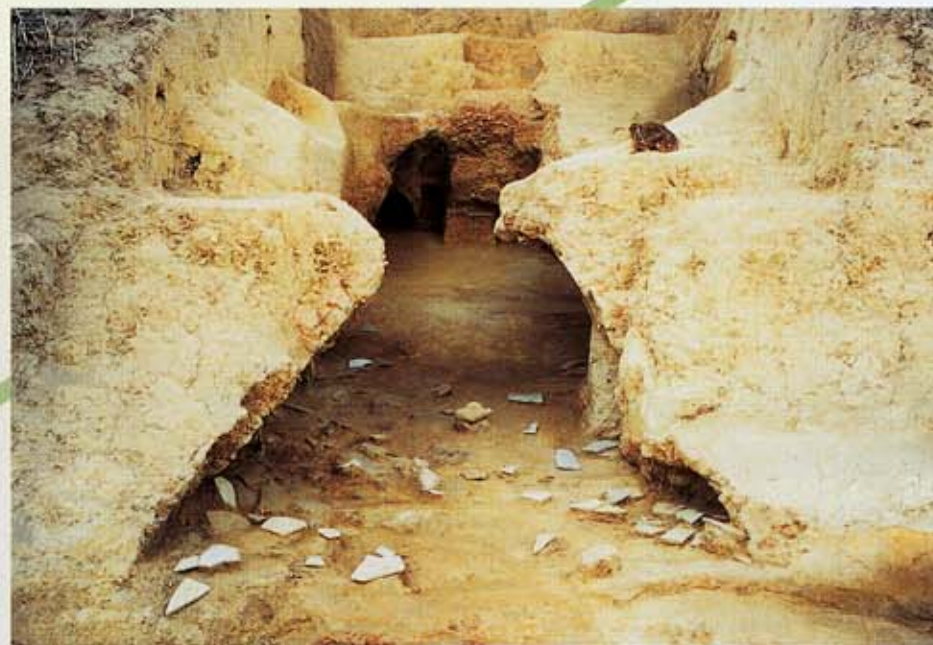
須恵器についてかたる  
すえぞーさん

それまでの土器よりも  
なぜかたいのでしょうか?  
焼き方からさぐってみましょう。



広島市安佐北区白木町・岩の岡第1号古墳

須恵器はお墓である古墳の中に供えられることもあります。たくさんの須恵器が古墳から発掘されています。上の写真では、割った須恵器を床に敷いています。



大阪府吹田市・吹田32号須恵器窯跡

発掘された須恵器の窯跡。天井はほとんど落ちています。窯としては古い時期(5世紀前半頃)のものです。

まきを入れおわったら  
このけむりの穴と下のまきを  
燃やす穴をふさいで空気が  
入らないようにするんだ。  
すると、焼いた器は  
灰色っぽくなるよ。  
こういう焼き方のことを  
還元炎焼成というんだ。

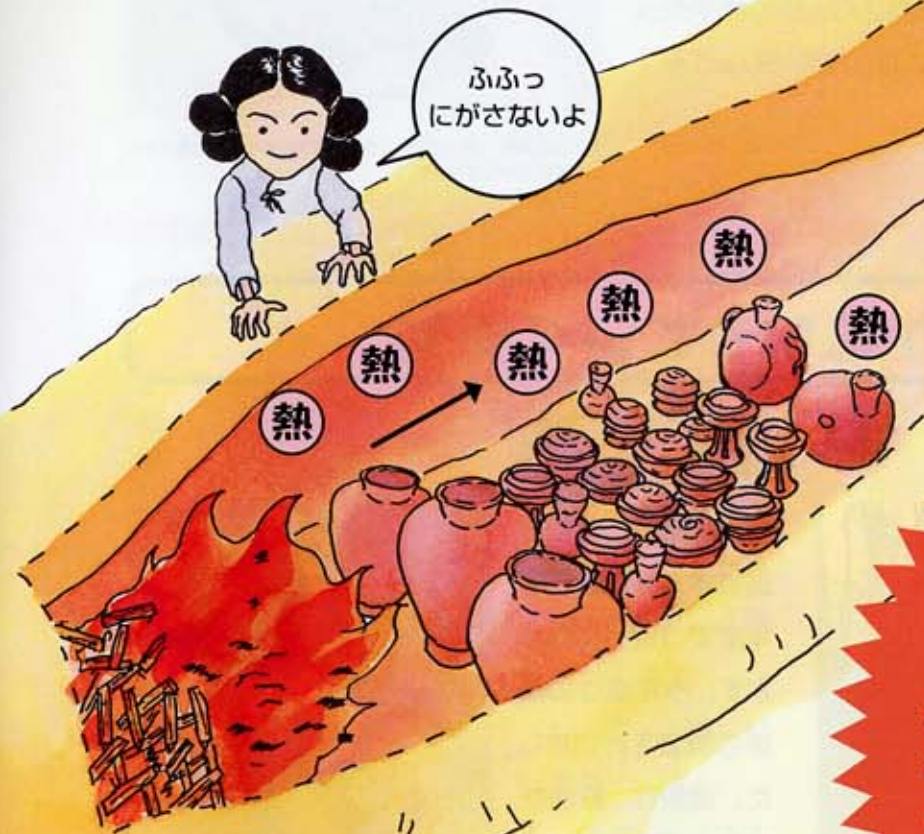


## 須恵器の焼き方

須恵器は窯を使って焼かれています。天井をおおっているので熱が逃げず、温度も1100~1200℃くらいまで上がります。



ある陶芸家が須恵器を再現した時にはダンブ1台分くらいのまきを使いまして。まきを入れ続けて、1週間燃やした後、入口と上のけむりの穴をふさいでさらに1週間後に入口を開け、器を取り出しました。



ふふっ  
にがさないよ

## 高い温度で焼くと こんなところが!

温度が1000℃をこえるとしだいに粘土に含まれている砂粒がとけて、粘土の中のすきまを埋めていきます。その結果、粘土がガラスのようになり、できあがった器はかたくしまったがんじょうなものになります。

山や丘の斜面に作ります

須恵器は古墳時代に朝鮮半島から伝わった技術で作られています。ろくろを使って形を作り、窯を使って高い温度で焼いています。それまでの土器よりもがんじょうで画期的な新製品でした。その技術は現代にもつながっており、須恵器は現代の焼き物の直系の祖先であるといえます。

古墳時代

窯の出現

弥生時代

## 弥生土器の焼き方

弥生時代には浅い穴を掘ってその中で土器を焼いていたので、熱が上に逃げていき、温度は700~800℃くらいまでしか上がりませんでした。



にげないで~

もっと高い温度で  
焼きたい!!



# 平成10年度の発掘調査

こんな遺跡を調査しました。

## 戸坂地区で弥生ムラ初確認!

### 長尾遺跡

東区戸坂にある長尾遺跡は、茶臼城山(通称西山)から街中へのびる尾根筋にいとなまれた遺跡です。4軒の竪穴式住居などからなる弥生時代の終わり頃のムラの跡などが見つかりました。広島市の中でも、戸坂地区ではこれまで弥生ムラの存在がきちんと確認されていませんでした。今回の調査によって初めてその様子が明らかになったのです。

しかし、長い尾根の上に数軒しか家がたっていないというのはちょっとさみしいですね。これが当時の戸坂地区のムラの様子だったのか、それとも、もっと大きなムラが別にあったのでしょうか? まだまだ謎はつきません。



竪穴式住居跡・焼けて炭になった木材があることで火事にあっていることがわかります。

## 年々明らかになっていく史跡

### 中小田古墳群

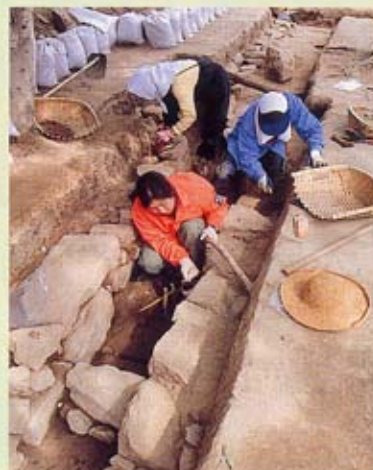
安佐北区  
口田南町の  
中小田古墳  
群は小高い  
丘の上にあ  
り、全部で  
13基の古



墳が点在しています。全国的に有名な三角縁神獣鏡が発見され、古墳群は国の史跡に指定されています。この古墳群を整備していくため、2年前からそれぞれの古墳の大きさや形の確認調査を行っており、しだいに全体の姿が明らかになっています。

### 広島城跡

中区基町にある広島城本丸の調査は今年度で3回目になります。今年度は御殿跡の調査を行いました。御殿は、殿様が寝起きする生活の場であり、家来たちとの面会の場所などあったところです。これまでの調査で、両側に石を組んだ江戸時代の溝のようなものや、現代のごみ穴などが発見されています。



発行/財団法人広島市文化財団 文化科学部 文化財課

〒730-0812 広島市中区加古町4番17号 アステールプラザ内 TEL 082-248-0427 FAX 082-248-8466

発行日/1999年3月30日 印刷/レタープレス株式会社